

NPO法人社会還元センターグループわ会報

情報ギャラリー

第33号

情報ギャラリー第33号

発行日 2006年1月26日

編集 グループわ広報部

発行者 納利春

発行元 NPO法人社会還元センター
グループわ

TEL (078) 743-8101 FAX (078) 743-3830

Eメール group-wa@wa-net.jp

ホームページ http://www.wa-net.jp

2006年の年頭に当って

理事長 納利春



グループわの会員の皆様、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。平素からグループわの活動運営に、ご理解とご協力を賜り、役員を代表して厚く御礼申し上げます。

おかげをもちましてNPO法人社会還元センターとしての事業も軌道に乗り、着々とその成果を上げております。平成18年度に向けて、受託事業の拡大を計るとともに、新たに会員相互扶助事業にも取組む所存でありますので、会員各位のさらなるご理解とご協力をお願い申し上げる次第です。

昨年5月、赤司前理事長のあとを受けて早や8ヶ月になります。この間、井上、三宅両副理事長はじめ理事、各部長、各区会長各位の強力なご支援のもと、NPO法人としての事業の推進、拡大に努めてまいりました。

ことにNPO法人格を取得してからグループわの仕事は急激に増えてまいりました。一昨年、こうべ環境未来館の管理運営事業の委託を受けたのをはじめ、昨年は引き続きその実績を買われて受託しています。

さらに子ども家庭センターの夜間および休日の電話受付業務も受託しています。それぞれ大変なそして大事な仕事です。これからの子どもを守り、次世代を育ててゆく大切な役目ですが、担当者のご努力で大過なく運営されています。

子どもたちの学習支援活動も広がりを見せています。市内の小学校から多くの派遣要請がきて、要望に応じきれないほどで、着々と成果を上げています。

フルーツフラワーパーク

でのイベントにも積極的に参画協働しています。行政との参画には積極的、発展的に行動しなければなりません。毎年契約更改があり継続申請するにはこうした積極的な計画が必要なのです。

外国人の留学生を含めたグローバルな動きにも心がけています。料理教室やスポーツ大会など国際部会だけでなく食文、いきがい部会など専門分野にも応援いただき好評を得ています。

各方面からグループわにお願いしてよかったとの評価を得ています。最近はいろいろの行政や民間でも環境や福祉方面の委託事業が増えています。グループわではこうした実績をもとに、積極的に新しい委託事業の拡大に取組む考えです。

一方、赤司前理事長が提唱された会員相互扶助事業（仮称）をスタートさせたいと思っています。この春からは例示的に（とりあえず西区から）はじめたいと考えています。力だけの一方通行でなく、それぞれの

得意分野を活かして助け合うことが大事ではないでしょうか。

グループわは会員皆様のもので、各グループ（新しいグループでも）の活動について本部にも相談の上、適合する助成金申請をしましょう。活動を期待して入会したものの何の動きも出来ないままの人達も多いと聞いています。

ボランティアは相手と共に楽しむので、その費用は自分で出すべきという意見もあります。しかし材料費とか交通費等の自己負担を少なくしないとボランティアは中々続けられないのではないかと思います。

助成金制度があります。中々難しいですが、突破口は必ず見つかります。区会、部会、本部と相談しながら取り組んでください。

来年はグループわの設立10周年に当たります。今年はその準備の年になりますが、会員の皆様方のイベント企画についての提案がございましたら遠慮なく申し出て下さい。



「グループわ」と「同窓会」の説明会

理事 - 小林 将悟

KSC在校の3年生全員対象に授業の一環として12月12日（月）カレッジホールで、グループわと同窓会の説明会が行われた。明確に認識して頂きたい事は『NPO法人社会還元センターグループわはKSC卒業生を主体としたボランティア団体であること。神戸市シルバーカレッジの建学の精神“再び学んで他の為に”を实践する場であり、KSC卒業後（在学中であっても可）ボランティア活動を通し、やりがい・いきがいを得る場であること。』である。

説明は、法人の目的、事業領域、組織、最近の法人環境の変化、財務傾向、実活動の紹介、活動継続の重要性、等を中心に行われた。

在校生からの質問は「各活動グループへの新規参加にかかる件と情報のあり方とリアクションの問題について」であった。数少ない質問であったが、中身は大切な要素を含んでおり、確かに受け止める必要がある。

同窓会の説明もグループわと同時に行われたが、在校生に対して適切な説明がなされた。

当日参加者は3年在校生約250名であった。

広がる学習支援活動の輪

戦争体験談や日本伝統文化の継承へ

グループわが取組んでいる「子どもたちの学習支援活動」が総合学習にも広がりを見せています。なぎさ小学校から戦争体験談を、また花谷小学校からは日本の伝統文化を教えてほしいとの要望があり、わの会員たちが“おじいちゃん、おばあちゃん役”になっての話しに、子どもたちも大感激していました。

戦争体験談を聞く会 なぎさ小学校(中央区)

6年生の社会科に「戦争と人々の暮らし」で、戦争体験者の話を聞こうという項目があり、グループわに協力要請があった。学習支援メンバーから3名を選んで、11月21日(月)同校2階学習ホールに、6年生2組全員79名が集まり約2時間、戦争体験を聞く会が催された。

同校では修学旅行を兼ねて広島原爆記念館を見学していたのですが、神戸大空襲の恐ろしい話を聞いて泣き出す児童もあり、戦争中の苦しい人々の生活に驚いた様子でした。

学習支援メンバーの中沢千枝子さんがハワイのフラダンスを披露して、日本軍の奇襲攻撃で、敵国(アメリカ)でも親、兄弟を失った子ども達の話の話を聞かせた。終わって学校給食を“おじいちゃん、おばあちゃん”と一緒に食べながら楽しいひと時を過ごした。メンバー3人の話の要旨は次の通り。

住み家を強制撤去

理事 中沢 保夫

昭和20年、太平洋戦争はますます激しくなるとなると、連日のようにアメリカ空軍による爆撃を受けていました。私は当時皆さんと同じ小学校6年生で、京都の五条に住んでいましたが、ある日家の玄関に張り紙が張られていました。「1週間以内にそれぞれ大切な荷物は持って立ち退く



戦争中の人々の生活の話に聞き入る児童たち

ように」との命令書です。平安京の昔に出来上がった古い都で家がたてこみ、東西南北縦横に狭い道があり、一度爆撃を受けたらひとたまりもありません。延焼を防ぐために東西は五条通や御池通、高辻通、南北は堀川通に建物の強制疎開命令が出されたのです。

立ち退いた家には在郷軍人や学生が狩り出され、家々の大黒柱に斧で切り込みをいれ、その柱に太い縄をかけて人力で引っ張って家を倒していく。先祖から受け継ぎ昨日まで住んでいた私達の大事な住まいが目の前で壊されました。私達はただ涙を流しながら眺めているだけでした。その悲しさはたとえようもないものでした。

空襲で母姉3人を失う

理事 西阪 順三

太平洋戦争が終わる1年前の夏、神戸市立北野小学校6年だった私は空襲で危険だからと岡山県へ集団疎開したのです。初めて親元を離れての生活には想像以上に辛く寂しいものでした。食糧難はひどく豆かす、高粱、いもの蔓の入った食事が多かったのです。

翌年3月神戸に帰ってきたのですが、毎晩のように空襲警報で着のみ着のまま寝る日が続きました。

6月5日に神戸大空襲があり、私は火の海の中を逃げ惑い、無傷で避難したのですが、母と姉2人の行方が分からなくなったのです。

1ヶ月後に下の姉の遺体を発見したのですが、母と姉の二人は見つけることが出来ませんでした。神戸の大空襲は120回で8,000人も犠牲者が出たのです。「二度と戦争はしない」と語り継いで頂きたい。

なぎさ小学校6年生からの感想文(一部を紹介)

★戦争は辛い体験だったと思います。ですが、その体験を聞かせて頂いたおかげで戦争の恐ろしさや、あつてはならないものだと、一同肝に銘じておきます。ハワイの踊り”フラ”とてもいい歌で、大人達の思いを子ども達に伝えたかったかよく分りました。(山本 駿)

★戦争について語ってくださって有難うございました。ぼくはあなた達の話聞いて命は大切だ、家族をもっと大事にしなければならぬと実感しました。親や兄弟(姉妹)から戦争のために離れて祖父、祖母の家へ送られて家族のいないさびしさを毎日感じてつらいだろうと思いました。(中川 大輔)

★わたしは戦争の話聞いてると、とても悲しくなってきました。おじさんが「親とはなれて平気ですか」といった時、親とはなれる事を想像してみたらとても不安になってきました。戦争は何かきっかけがないと出来ないんだから、私はそういうきっかけを作らず、他国とも仲良くしたらいいと思いました。(瀧井 彩那)

明るい日本の未来を 音6-文 中沢 千枝子

少し視線をかえると、戦争の恐ろしさやむごさは、当然のことながら相手の国にも起きていたんですね。昭和16年12月、日本軍のパールハーバー奇襲作戦はハワイの人々にとっていきなりの爆撃で、全く無防備の南の島では、悲惨な状態であったようです。

それまでもアメリカ本土から様々な差別を受け続けたハワイの人々は、当時禁止されていた本来のフラを子ども達に伝え、ハワイの子ども達が団結して滅びることがないようにという願いをこめた歌と踊りをつくりました。これはハワイの人々にとって大変勇気のいることでした。

生徒さんたちにアルリケ(ハワイ語で歌いフラを踊る)を見てもらいました。私はこの歌を知ったとき、阪神大震災の直後につくられた“夢をはこべるように”を思い浮かべました。苦しいことが起こったとき、泣き叫んでばかりでは解決しません。どうか皆さん方若い世代で明るい日本の未来を築いてください。

**伝統文化を教える
花谷小学校(須磨区)**

日本の伝統文化を知ろう。6年生の総合学習に出てくる。校区内には適当な指導者もいないので、グループ間に協力要請がありました。三味線、大正琴、いけばな、詩吟をグループが、お茶、水墨画は同校の先生が担当することになりました。

11月28、29の両日、6年生4組135名がそれぞれ希望の教室に別れて授業を受けましたが、みんな興味深く取り組んでいました。中芝校長も「予想以上の成果があり、来年も続けたい」との評価にメンバーの会員たちも気を良くしていました。各グループ代表の話の要旨は次の通り。

**全小学校に広めたい
詩吟同好会 小畑 章**

私達は日本の伝統文化の継承を願っておりましたとき、花谷小学校から「日本の伝統文化」の学習支援の要請を受け、願ったり叶ったりでお引け受けしました。小学校6年生に「詩吟」を45分間で分ってもらうようにするためには、まだ漢詩や短歌や俳句を学習していないだろうな、キーの高さはどの程度だろうか。等々考えながら綿密な計画を練りました。

学習では「詩吟を聞いたことがあるか」と尋ねたところ、皆さん全く初めてだったようです。難しい講義はやめて、実技主体大声を出して詩吟を楽しく学んで貰える様に心がけました。「あ」の発声競争では20秒以上続ける生徒がいて素質は十分です。

漢詩「偶成：朱熹」をホワイトボード一杯に手作りの譜面を作り、一節ごとに

繰り返し、繰り返し声を出してもらったので、だいぶ声が出せるようになったと思います。

生徒の感想文のほとんどが「詩吟は初めてでしたが、機会があればまた習いたい」とあり、私達も大変遣り甲斐があったと思っています。今回の授業で生徒達に今すぐ詩吟を始めてもらえるとは思いませんが、また何かの機会に詩吟に触れた時に、詩吟を思い出して入門願えればありがたいことです。

花谷小学校の校長先生、お世話くださった先生方に厚く感謝申し上げます。さ



いけばなの指導を受ける花谷小の生徒たち

らに須磨区全体、神戸市全体にこうした計画をして頂けたらと願っています。

**感性の素晴らしさに驚き
大正琴クラブ 杉山 稔恵**

伝統文化の学習支援で、大正琴を花谷小学校の皆さんと共に弾けたことを大変うれしく思っています。初めてお会いした時の子ども達の不安と好奇心に満ちた顔が忘れられません。

45分間の短い時間の中で「ふるさと」「夕焼けこやけ」の2曲を皆さんが弾けるようになり、最後に合奏とともに合奏を楽しく出来て、本当によかったと感謝しています。孫のような子どもたちの感性のすばらしさと、前向きで明るく元気な姿に、私たちも若さと感動をもらったような気が

しました。中には大正琴をクリスマスプレゼントに買ってもらいたいから値段を教えてとか、習える教室があるのか、お年玉を貯めて買おうかしらなどという子ども達もいて、びっくりしたり、うれしくなったりでした。

これからも多くの子ども達が、日本の伝統文化を学び伝承してほしいものです。そのお手伝いができたらうれしく思います。

**いけばなに興味深く
国11 福井 恵子**

6年生のレベルが分からない上に、教える方が慣れていないことでもあり、皆さ

んが興味を持ってくださったかどうかとても恐かったです。歴史を長々と喋ってしまい、退屈だったのではないかと心配でした。

生徒の皆さんの感想文を読ませて頂き、初めていけばなバサミを持って切り、剣山に挿す実技体験に興味を持ってくださった事がよく解りました。「機会があればやってみよう」という言葉にはとても嬉しかったです。

四季折々に違った姿を見せる自然は、日本独特の「いけばな」という文化を発展させてきました。仏様に花を供えることから始まり、いけばなとして表に出てから500年、建築様式や外国との交流などで変化してきました。

外国では日本の花を生かす「空間造形いけばな」に興味があるようです。日本人として日本の文化を知って、伝えて頂きたいと思っています。



花谷小学校6年生からの感想文（一部を紹介）

★ぼくのおじいちゃんの家には三味線がありますが、糸が切れて弾くことが出来ません。今回の学習で三味線のげん(糸)、たいこの部分、板などの素材について学習し、いろいろな種類の音色を聞けてうれしかったです。おじいちゃんの三味線に糸を張って弾いてみたいです。(川田 健太)

★私は初めて大正琴をして、とてもいい思い出になったと思っています。実際に弾いてみると楽しく、日本独特な感じのいい音だなと思いました。「ふるさと」は音楽の授業で歌うので、練習するとだんだん弾けるようになって嬉しかったです。(満井 佳奈子)

★いけばなは、ただ好きな所に花をさすだけだと思っていましたが、剣山があることや花の位置の三角形があることも知りました。真と副と体、天地人の位置、歴史まで教えていただいてありがとうございます。(山本 幸穂)

★最初、詩吟は何をするのか知らず、講師の方が15秒以上も声を出しているのにはびっくりしました。ぼくらは15秒が精一杯で、詩吟は声をのばしたり、低くしたり、高くしたりするのは大変でしたが、最後はうまく詩吟ができるようになりました。(大野 由宇)

バンド演奏に万雷の拍手

理事・三宅 慶忠

シンガポールのコンパスバイル中学校(Compassvale Secondary school)のミリタリバンド一行(40人余)が音楽を通しての国際交流親善のため神戸、大阪を訪ね来日しました。神戸では11月25日(金)シルバーカレッジでバンド演奏が披露されました。

同校バンドの国際交流を企図した親善演奏は過去にも2度程ありました。そのきっかけは国際コースのグループ学習テーマにシンガポールを選び、学習の過程でカレッジの語学講師・丸尾先生やシンガポール協会などのご紹介でシンガポールとの交流が持たれたことです。

シンガポールでも高齢化社会は課題化してきており、シルバーカレッジはどんな学校なのか、卒業後どんな活動をしているのか、といったことを学習する意味合いも込めて、今回もシルバーカレッジ訪問となったのです。

同校学生は日本の中・高生の年齢で、同校ミリタニバンド(マーチングバンドのこと)はシンガポール青少年音楽祭バンド部門金賞受賞実績の優秀な演奏技術を持っています。当日はカレッジ事務局やグループわの鑑賞呼びかけが功を奏して、カレッジホールがほぼ一杯になりました。

授業の関係もあり、昼の休み時間という短いひと時でしたが、グループわが一役買った歓迎ムード演出の会場設営に、演奏も一段と熱が籠り、しかも曲目は日頃耳に馴染んだ日本の童謡、演歌が多く会場は見事な演奏に酔いしれました。

コンサート終了後、国際コース1・2年生有志がしあわせの村「あおぞら」で昼食を共にし、村内を案内してまわりました。

グループわも独自の歓迎として一行が前日の24日、関空からフルーツフラワーパークに直行したのを迎え、到着したあと夕食までの休憩時に竹とんぼ、独楽回し、折り紙などいわゆる昔遊びに興じて貰いました。この歓迎には、グループわの文化部会や国際部会など会員有志に加え、国際コースなど在校生にも協力して貰いました。

グループわは、本年度ボランティア活動で、とくに在神外国人を対象にした国際交流を図る方針なのでその一環ともなる歓迎イベントでした。

第3回学習支援活動

登録者の集いのご案内

日時：平成18年3月22日(水)10:00~12:00

場所：神戸市シルバーカレッジ学習室1.2

打合内容

- (1) 平成18年度「子どもたちの学習支援活動の進め方について相談
- (2) 登録者の報告、意見発表と情報交換

まだ登録をされていない方々(10、11、12期生含む)も、どうぞご出席くださいますようご案内いたします。



見事なバンド演奏に聴衆から割れるような拍手

季節の草花 ③ 生8-文 久保 知彦 ニホンスイセン

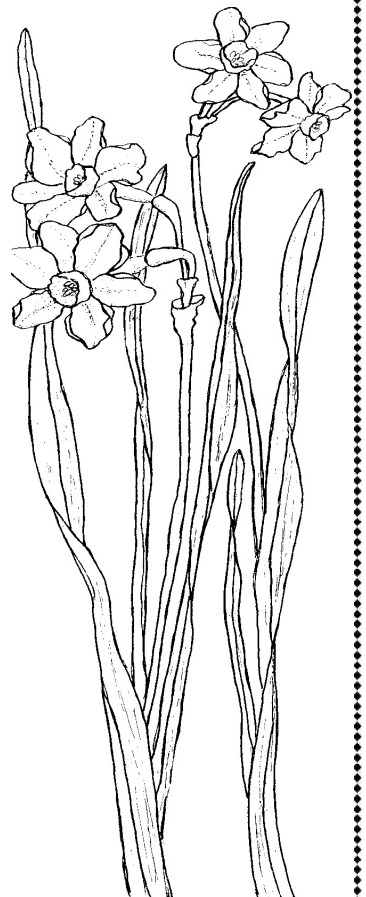
日本で普通に見られる「水仙」はニホンスイセン(ヒガンバナ科)です。自生しているものでは淡路島の黒岩水仙郷や、福井県の越前海岸の花が有名です。とりわけ越前岬のものは日本海の強い潮風と雪のなかで咲いている姿から福井県の県花とされているくらいです。

スイセン属(Narcissus)は地中海沿岸などに約30種分布するのですが、その一部がペルシャからシルクロードを通して中国にもたらされ、中国南部から黒潮によって漂流したものが海岸に漂着して自生しはじめ

たものといわれています。園芸種はこうした原種の交配によって生み出されたもので、多くの種類ができています。

学名のNarcissusはギリシャ神話で、美少年ナルシッサスが水面に写るわが姿に見とれて、己の姿に恋い焦がれてスイセンに化けてしまったという話からきています。

自分の美貌に酔いしれる人を「ナルシスト」というのもここからきたといわれます。ちなみに、スイセンの花言葉は「自己愛」「思ひ出」「記念」などがあります。



ケナフから学ぼう地球温暖化

ケナフと牛乳パックでクリスマスカード作ったよ
生3-環 中島 洋吉

こうべ環境未来館エコスクールの「ケナフから学ぼう地球温暖化」は昨年12月10日(土)10時からスタッフを含む総勢62名の参加で実施しました。

まず、受付で参加した子どもたち全員に、ケナフの花と自分の名前が書かれた缶バッジを渡すと、子どもたちは、「ヤッター」と声を出して大喜びでした。

主催者のあいさつの後、紙芝居を使ってケナフや地球温暖化について子どもたちと対話しながらの解説したところ、子どもたちから鋭い質問が寄せられ関心の高さに驚きました。

その後、参加者は6つの班に分れ、それぞれの班で自己紹介をした後、紙すきの説明を聞いてスタッフの指導で紙すきに挑戦しました。参加者は押し花を使って、自分だけのオリジナルカードを作成しました。

午後からはスタッフがアイロンで乾かしたカードに、思い思いの素晴らしい絵や文字を書いてオリジナルクリスマスカードを作成し「この様なカードができました。〇〇さんに差し上げます」とみんなに作品を披露しました。最後はみんなが後片付けをして楽しく

催しを終わりました。大変手間のかかる事前準備から当日の会場設営と紙すきの指導までしていただいたグループわとシルバーカレッジ在校生のケナフグループの皆さんに厚く感謝いたします。

当日の参加者の感想

・地球温暖化が進むと、地球がどうなるかが分かりました。紙をつくるのが楽しかったです。(8才女児)

・ケナフが色々なことに役立っていることが分かりました。地球温暖化防止にも役立っていること、ケナフで紙をつくるのができて楽しかったです。お絵かきも楽しかったです。(9才男児)

・ケナフの名前は知っていたが、どれだけ地球温暖化防止に役立っているかが分かりました。子どもと一緒に紙すきができて楽しかったです。(4才男児)

・ケナフの詳しいことが分ってよかったです。地球温暖化、身近な環境も生活の中で見直すところがいっぱいあるなと感じました。見直すことを少しでも実行していきたいと思います。紙すきは初めてです。牛乳パックなどを使って、また作って見たいと思っています。(女性)



熱心に野鳥を観察する親子たち

第一回自然と野鳥の観察会

生7-環 吉田 忠史

神戸市立フルーツフラワーパーク(FFP)主催の「第1回自然と野鳥観察会」を11月27日(日)に実施しました。親子10名が参加し、グループわ本部とKSC「野鳥と自然観察会」のメンバーが応援しました。

FFP内の多目的ホールで冬に見られる野鳥はじめ、双眼鏡の使い方、観察時のマナーなどの解説があつて野鳥観察に出かけました。コースは多目的広場から自然散策道、果樹園とその周辺にある調整池、ため池など。

朝から好天ながら風が強く、野鳥たちが活発に動くのに必要な体温37℃(適温)を保つには心配な状況でした。林の紅葉は濃淡が鮮やかで、クヌギは淡い褐

色、ウルシ、桜、柿は真紅に染まり、双眼鏡で眺め全員感動していました。

調整池ではアシの群生からクイナ科のバンが見え隠れしている所に出会い、隣のため池では水面に被さった木の枝に、オシドリ3羽とヒドリガモ13羽が風を避け休んでいるところを全員スコープで観察する事ができ、自然環境が残っていることに感動し、探鳥会を終了した。

最後の鳥合わせでは、鳴き声を確認したホオジロ、カワラヒワやメジロなど11種類の野鳥を観察することができました。このイベントはFFPのシーズンオフを利用して、子ども達の楽しい思い出になるよう今後も続けたいとスタッフも意欲を述べていました。

大歓迎 グループわ 会員申し込み

新しく卒業される10期生の皆さんへ、グループわ 会員の申し込みについてご案内します。

- ①受付日時 1月30日(月)から受け付けます。以後3年生登校日に受け付けます。具体的日時は受付場所に掲示します。なお皆さんのご事情により、1月30日(月)以前にお申し込みの場合はグループわの事務所(二階)までお出で下さい。
- ②受付場所 事務局入り口左側で担当者がお待ちしています。10期生以外(一般の方を含む)の皆さんのグループわ 会員申し込みも大歓迎です。
- ③お問い合わせ グループわ 迄(電話743-8101 又はFAX 743-3830) 随時ご連絡下さい。

グループわ 事務局



紙芝居で地球温暖化の話聞く子どもたち

文化部会



K S C 男声合唱団 創立5周年記念演奏会 2005年11月12日(土)「うはらホール」

いつまでも若々しい歌声を

KSC 男声合唱団第1回演奏会

国6-文 黒田 宏

K S C 男声合唱団は団員の総意により、昨年 11 月 12 日、東灘区民センター「うはらホール」にて第 1 回演奏会を開催し、成功裡に終えることができました。多くの方、特にシルバーカレッジの皆様の激励とご支援の賜物と心から感謝しています。

創部当初は 7 名だった団員も現在は 40 数名という大所帯です。在校生と卒業生（グループわの会員）が男声による素晴らしいハーモニーをア・カペラで楽しんで参りました。そして年間 20 数回に亘り各種施設を訪問し、多くの方と一緒に男声の重厚な音色を分

合える喜びをかみしめているところです。

今回の演奏会では 5 つのステージの中、3 ステージを暗譜で演奏するという大胆な決意で臨むことになり、週 1 回の定期練習と臨時練習を行い、全員が必死で暗譜に取り組みました。平均年齢が 70 歳を超えたメンバーが暗譜でしかも全曲無伴奏の演奏とあって、団員にとっては極めてハードな演奏会になったと思

ますが、それでも脱落者はなく頑張ることができました。今回の演奏会を第一歩としてこれからも音楽を愛し、人との交流を大切に何時までも若々しく歌って行きたいと思っています。演奏会は「震災 10 年 神戸からの発信」事業に参画したもので、入場は無料としましたが、さきの震災で父親や母親をなくされた子供たちの支援に尽力されている「あしなが育英」への募金を呼びかけましたところ、多くのご支援を賜りました。

来場頂いた大半の方がシルバーカレッジの在校生と卒業生であり、ここにご報告と御礼を申し上げます。



環境部会

シルバーカレッジに隣接する雑木林を 1999 年 4 月から里山として再生するため、ボランティア活動として整備作業が開始され今年で 8 年目を迎えることとなります。当初 3 年間で約 13,000 m² を再生し、2002 年から毎年メンバーも増加し再生面積も大幅に拡大し 2004 年度末までで約 22,500 m² を再生することができました。

現在の里山にはベンチが設置され、樹木や草花に名札が取り付けられ高木には小鳥たちの巣箱も取り付けられています。また、再生された里山には四季折々に色とりどりの山野草が美しい花を咲かせ、自然のめぐみをいっぱい実らせてくれる素晴らしい環境に出来上

里山林整備の講習会に参加して

～チェーンソーの安全使用体験談～

生6-環 松本 義彦

がってきました。

ここでひとつの問題が生じてきました。それはこれだけ広がった里山の維持管理です。一方で再生作業は今後とも継続していきますが、今まで整備してきたところのメンテナンスはどうしても人海戦術だけでは対応しきれなくなってきました。勿論メンバーの高齢化による作業量の低減もあります。これを解決するには一部動力機の使用が不可欠です。

たまたまそんな折、仲間から兵庫県が主催するチェーンソーの安全講習に参加を誘われ昨年 9 月から 12 月までの間、宿泊研修を含め 8 日間実地訓練を受けて

きました。実習場所は夢前町にある夢前の森公園内のヒノキ林で行われ、生まれて初めてスパイク付の地下足袋を履き頭にはヘルメット、腰にはノコギリや鉋をぶら下げ杉や檜の植林した急斜面を汗をかきながら這い登りよいよチェーンソーの使用訓練開始です。

樹齢約 40 年、直径約 20cm、樹高約 20m の檜を 4,5 人が一つのグループになって指示する人、チェーンソーを使う人、ロープを引っ張る人とそれぞれ役目を順番に交代しながら伐倒していきます。いきなりチェーンソーを使わされ大変緊張しましたが何回かやるうちに多少自信がついてき

ましたが、なかなか教えられたマニュアルどおり伐倒作業をこなすことはできませんでした。しかし大きなヒノキを大音響とともに伐倒したときの爽快感は感動ものです。

参加された方々は県内各地で里山の保全活動をされておられる 60 歳代の方ばかりで里山の保全についても意見交換することができ大変有意義な講習会であったと思います。現在我々の里山ではチェーンソーを使う機会はあまりありませんが、今回の講習会で刈払機の訓練もあり、今後の活動（里山の下草刈り）におおいに役立つものと考えています。

今年もまた楽しい仲間と里山の再生に取り組んでいきたいと思っています。



国際部会

文化部会

「老老」から「老少慰問」へ
音4-文 垣尾 一士

初めての豆腐づくりに歓声

外国人留学生の料理教室 国8-国 佐伯 義昭

(財)県国際交流協会からの国際交流活動の助成金で、グループわ国際部会の平成17年度の事業として、11月3日(木)午前10時から東灘区民センター“うはらホール”で、外国人留学生と日本料理で交流会を開きました。

参加者は留学生18名はじめ国際部会12名、食文5期生8名、本部1名総計39名という定員をオーバーする賑わいでした。



豆腐づくりに取組む外国人留学生達

留学生はウルグアイ、ベトナム、アルゼンチン、エクアドル、スペイン、ブラジル、アメリカ、モンゴル、ロシア、ポーランド、香港と国際色豊かな人達が参加、多言語が飛び交う国際交流の場となりました。

料理教室では日本の伝統的な豆腐作り、きのこの炊き込みご飯というメニューを企画。これには食文5期“銀の匙”グループの人達がレシピを作成(和文)して下さり、それに英文のレシピを作成して留学生に配布しました。

豆腐作りは食文の方が準備万端手際よく前夜から大豆を水につけて下さり、当日はつけ水と共に大豆をミキサーにかけることから始

まりました。そしてあわせ汁を作り、豆乳を搾り出し、袋に残ったのが「オカラ」。搾り出した豆乳を加熱し、このとき表面に張る膜が「ユバ」。ニガリを打って、とうふ箱に移し水分を切ると、見事な豆腐が出来上がりました。

留学生達は料理台が6台なので6班に分散、食文の人達の手つきを一生懸命眺めたり、また指図により豆腐作りの作業を楽しんでい

ました。各班ごとに時間のずれはありましたが、出来上がった豆腐に彼等は拍手と歓声が上っていました。

一方、きのこの炊き込みご飯の調理も同時に進められ、12時ごろに炊き上がりました。自分達の手で作った豆腐に醤油をかけ、きのこの炊き込みご飯、それにオカラの炒り煮を賞味する彼等は満足そうでした。

留学生達はもちろん私達もはじめての体験であり、大豆から豆腐を作る過程で、ユバ、豆乳、オカラが出来上がることを知り、これを食し日本の食文化の合理性を学んだことだと思います。食文(5期)銀の匙の方々には大変お世話になりました。



老少慰問のSCハワイアンズとデーサービス塩北

SCハワイアンズの支援もあって、全国ミュージックベル合奏コンテスト高齢者部門で見事全国第3位(銅賞)を受賞した『デーサービス塩北』チームに対し、近隣の老人クラブの要望で「敬老の日」に演奏会を実施。「老老介護」などで「老老の慰問」として情報ぎゃらりー32号にも紹介された。

それが今度は、元気な老人達の活躍ぶりを是非、子どもや地域の人々にもとの要請で、12月3日、マナビィクリスマス会に出演、150名程の前で「老少慰問」となった次第。

国際部会

留学生とローンボール 国8-国 廣田 重行

今年2度目となる外国人留学生とのスポーツ交流会を11月19日(土)しあわせの村ローンボウルス場で開催した。参加者は外国人留学生6名と国際部会員、生涯スポーツクラブ員の計32名が8レーンで競技しました。留学生はウルグアイ、ベトナム、アルゼンチン、スペインと多国籍ですが、日本語を勉強しているので十分意思が通じていました。

前回、ペアを組んだスペインの留学生が名前を覚え

2度の出演ともなると終了後には「六小節からリズムが狂った」とか「転調後の出だしの声が出ていなかった」等、反省意見もしきり。ちなみに演奏曲は『きよよしの夜』に始まって『エーデルワイス』『谷間の灯』『アロハオエ』(受賞曲)等5曲を英語、ハワイ語を混ぜて迫力ある合奏(唱)を披露。

何歳になっても人前に立ち、多くの拍手をもらい、達成感にひたるこのグループを見て、まさに自己実現することが人間を活性化させる要諦と痛感!のひとときでした。

ていて“コモエスタ”と答えたが、後が続かない。それでも競技中には英語、スペイン語、日本語と歓声が飛び交った。2度参加の留学生もローンボウルの基本が大体わかってきて、自分で得点表をつけるようになり、うまくプレーするとガッツポーズをするなど上達したようである。

対戦相手の球を間違って使用するなどのハプニングや珍プレーもあって、和気あいあいのうちに競技を終了、アツという間の2時間であった。生涯スポーツクラブの方々には準備段階から競技指導まで協力して頂き有難うございました。

東灘区会

4年連続でクリスマス慰問

音5—東 藤井 潤子

特養老人ホーム「サンライフ魚崎」のクリスマス会が昨年12月19日から1週間催されました。グループわ文化部の皆さんの協力で4年連続の出演となりました。

初日の19日は「二胡と十三絃の合奏」で富山節子さん(音2期)の二胡の伴奏で、ホーム70名の皆さんと一緒に唄った「ジングルベル」はとてもユニークなハーモニーで初めての経験でした。続いて富山さんの十三絃の演奏「春の海」を静かに拝聴しました。

20日の「マジック」は初めての出演で、森田明朗(国8期)浅原サチ子(福8期)ご両人のすばらしい演技に、皆さん目を見張り、頬を紅潮させて拍手々々でした。終わって「来年のクリスマスも来てね」の声に満

悦でした。

21日はホームの皆さんお待ちかねの「KSC男声合唱団」のコーラス。陰山恭道さん(音6期)の指揮でアカペラで唄うオリジナル曲、懐かしい曲、童謡など。"ふるさと"は皆さんと一緒に良き思い出を胸に一生懸命唄いました。広川幾雄さん(生4期)もソロで力強く唄っていました。もちろん次のクリスマス会の出演依頼も受けました。

22日の「銭太鼓」はあいにくの積雪のため中止でした。皆さんが1年間待ち続けた演奏でしたが、残念でした。

いつも文化部の皆さん方に助けられて「サンライフ魚崎」のクリスマス会を盛り上げて頂き有難うございます。佐藤施設長から御礼の年賀状が届きました。



公園の清掃に汗を流す長田区会の会員たち

て作業を始めます。南北に細長い公園ですが、西部土木事務所から季節に応じた草花を提供してくれるので年中、綺麗な花を鑑賞できる公園でもあります。

犬を散歩する人、通勤する人、中学、高校生も私達

の作業を見ながら「ご苦労さま」「おはようございます」と声を掛けてくれます。この言葉が励みにもなりますし、疲れを忘れさせてくれます。村野高校から生徒達の元気な声が聞こえる頃には、私達の作業が終わる時間です。

西区会

神出自然教育園で餅つき大会

国6—西 片濱 勝好

市立神出自然教育園で昨年12月15日(木)午前10時から行われた餅つき大会に参加してきました。グループわ、シルバーカレッジのボランティアメンバーと教育園の職員が、相互の親睦を一層図るため、園のご好意により食材、道具等の提供をいただき、餅つき大会が催されました。

好天气に恵まれたのですが、例年になく冷え込みの厳しい日でしたが、約100人の参加者があり、皆んなわいわい、がやがやと楽し

いひと時を過ごしました。

餅つきの終了後、昼食会があり、食文5期生の「銀の匙の会」の皆さんの炊き出しによるオニギリと豚汁に満腹感にひたりました。またお土産に、搗き立ての御餅をワンパックづつ頂き、再会を約して解散した。

他のグループからは10人余りの参加者があり盛り上がっていましたが、我が西区会からは参加者が少なく、少し寂しかったです。次回はもっと参加が多いことを願っています。



賑わったサンライフ魚崎のクリスマス会

長田区会

公園の清掃作業に汗流す

美8—長 松本 治司

阪神大震災で多くの犠牲者が出た長田で、いち早く被災者の台所として新鮮な食材を提供してくれた市場があった。村野高校の西側で新湊川沿いの空き地に、ガレキを集めて出来た俄か造りの市場があり、遠方からや

ってくる人が多かった。そんな市場も今は無く、静かな公園として地域の人達の憩いの場となっている。

私達「長田会」はこの公園で、毎月清掃作業をしています。夏は7時から、冬は8時に集合し



にぎやかな餅つき大会

日本が誇る豪華客船『にっぽん丸』体験乗船の旅 (1泊2日) 及び房総花めぐりの旅 (2泊3日)

この度、下記の通り企画いたしましたのでご案内申し上げます。
この「にっぽん丸」は世界一周に就航している豪華客船です。必ずお楽しみいただけると思います。
皆様方には何かとご多忙とは存じますが、ご家族、お友達お誘い合わせの上ご参加いただきますようお願い申しあげます。
尚、Aコース、Bコースの二通りがありますので何れかを選択して下さい。



記

Aコース【船中一泊】二日目横浜港着後解散自由行動にて神戸へ帰っていただきます。
 旅行実施日 平成18年3月18日(土)～19日(日) (1泊2日 にっぽん丸体験横浜港解散)
 宿泊 「にっぽん丸」船中泊(ステートルーム使用 二人部屋です)
 出発時刻 18日午後1時30分までに神戸港中突堤にご集合ください。(集合場所後日連絡)
 旅行費用 49,800円
 募集人員 横浜港解散後自由行動新幹線乗車までに山下公園、中華街等散策できます。特定しない。但し二人部屋ですので、出さればお二人でお申し込みください。

Bコース【一日目宿泊はにっぽん丸・二日目の宿泊は鴨川又は小湊。三日目は房総を観光します。】
 旅行実施日 平成18年3月18日(土)～20日(月)
 宿泊 1日目「にっぽん丸」船中 2日目鴨川又は小湊(旅館については後日連絡します)
 出発時刻 18日午後1時30分までに神戸港中突堤にご集合ください。(集合場所後日連絡)
 旅行費用 69,800円 (宿泊・食事・ガイド・添乗員付き)
 募集人員 20名以上(20名より催行、但し20名以下の場合には中止もあります。)

申込締切 2月15日 A、Bコース共

| | | 行 | 程 |
|---|---|-----|--|
| B | A | 一日 | にっぽん丸にて太平洋クルーズ 神戸港~~~~~ 15:00発 |
| | | 二日目 | ~~~~~横浜港 自由行動 新横浜+++++[新幹線]+++++新神戸 (山下公園、中華街等散策) 13:00着 |
| C | B | 二日目 | 太平洋クルーズ ~~~~~横浜港 ====(海ほたる)====房総(鴨川又は小湊にて宿泊) 13:00着 |
| | | 三日目 | 旅館====誕生寺====コマ牧場====鴨川シーワールド====ローズマリー公園 ====千倉花壇====羽田空港====神戸空港(着後解散) 20:05発 21:15着 |
| | | 目 | (観光コースについては当日の交通事情・天候により変更する事もあります) |

船内の食事はディナー・昼食・朝食・夜食・アフタヌーンティーが付いています

注) 取消料については出発日30日前以降旅行規約に基づきかかりますことをお知らせします。

船内施設 (下記施設を利用してお楽しみください)

- ◎大浴場/サウナ ◎スポーツデッキ ◎ドルフィンラウンジ ◎プール ◎ミッドシップバー ◎シアター
- ◎ライブラリー ◎カジノコーナー ◎ラウンジ「海」 ◎ブティック「アンカー」 ◎カードルーム その他



お問合せ、お申込はグループ わ TEL 743-8101

又は 大坪英二まで TEL&FAX 709-2484

世界遺産をめぐる南イタリアの旅

生8-文 久保 知彦



立派なホテルもある洞窟住宅「サッシ」の町

八生会（生環8期生）有志による「世界遺産を巡る旅」はアンコール遺跡、中央ヨーロッパに続いて3回目となります。今回は19名で南イタリアを訪ねました。

イタリアの世界遺産は40を数え、国としては世界最高となります。イタリアは歴史のある国です。日本の縄文時代や弥生時代の頃には、すでに優れた文化が始まり、壮大な建築物が出来上がっています。その中で、繁栄・侵略・滅亡・再建の歴史が繰り返されてきました。

今回訪れたのは、ナポリを起点として、カプリ島、ポンペイを見学。東側に移動して、マテーラとアルベロベッコを訪問。そこから南下してシチリア島に渡り、タオルミーナ、アグリジェント、パレルモ、モンレアーレというコースを訪れました。

ナポリ・・・歴史地区は世界遺産に登録されていますが、ここは宿泊してバスで一巡するだけに終わりました。（世界遺産）

カプリ島・・・「青の洞窟」で有名ですが、それだけでなく風光明媚な観光地

です。
ポンペイ・・・ヴェスヴィオ火山の噴火で埋もれた町です。発掘が進んで多くのことが明らかになりました。ほんの一部しか見ることができませんでしたが、古代にこんな都市計画が存在したことに驚きます。（世界遺産）

マテーラ・・・洞窟住宅「サッシ」の町です。古くから、岩盤に掘り抜かれた洞窟がやがて都市を形成し現在に至っています。（世界遺産）

アルベロベッコ・・・NHKテレビで紹介され、一躍有名になった「トゥルツリ」というトンガリ屋根の住宅が立ち並ぶ町です。石灰岩の板を屋根に積み上げたで作られた家屋で、厚い壁が防寒・防暑に役立っています。（世界遺産）

タオルミーナ・・・ギリシャ時代に造られローマ時代に改修された「ギリシャ劇場」が有名で、いまでもイベントに使われています。

アグリジェント・・・「神殿の谷」には、かつてギリシャ時代の神殿が立ち並んでいました。その一部が残っています。風化が進んでいる

ので修復が行われていました。（世界遺産）

パレルモ・モンレアーレ・・・パレルモは南イタリアのナポリに次ぐ都会です。豪華なモザイクの装飾のある聖堂などが見られます。

短期間でしたが多くのことを学びました。これらの遺産は長い歴史の中で、破壊され改築されたりして現在に到っています。

私達はこれらのほんの一部をみただけにすぎません。時間が許せばゆっくり見たかったし、他の世界遺産についても見学したかったです。世界遺産には登録されていなくても価値あるものがあります。

また、イタリアの人々の生活の様子や人間性もうかがうこともできました。そのいくつかを紹介します。北部と南部で多少の違いはあるかもしれませんが、全体に人々の生活は質素に見

えました。

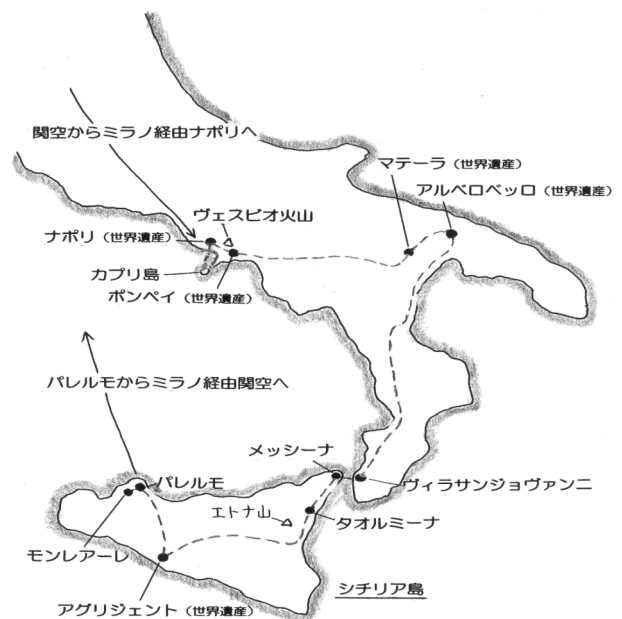
乱暴な車の運転には驚きました。特にナポリ市内では2車線なのに3車線なりに走っていました。

集合住宅のベランダの外側に洗濯物が干してありました。雨が降ったらどうするのかと思ったら取り込まずに晴れて乾くまで放置するとのことでした。

驚いたことに5階のベランダからカゴをスルスと下ろして買い物をする風景を見ました。（次頁に続く）



スケッチはアルベロベッコのトンガリ屋根の住宅街



南イタリア（-----は旅行経路）



最も保存状態のよいコンコルディア神殿

(前頁から続く)地中海では一番大きい島、シチリア島は北海道ほどの大きさで、島の中央にはヨーロッパ最高のエトナ山(3,330m)が聳えています。

この島には先住民ミケロス人やエレミア人が居住していたが、8世紀頃にフェニキア人に支配されそれ以降、ギリシャ、ローマ、ビザンチン、イスラム、ノルマン、フランス、スペインと幾多の民族が興亡を繰り返してきました。そんな中で独自の文化を育んできたのです。

この地方では不思議なことに山頂とか、中腹に集落が形成されています。その昔、幾度となく外敵に襲われた経験からだそうで、しかも裕福な人ほど高台に住居を構えています。

島最大の都市、パレルモのホテルのそばには中央市場があり、活気に満ち溢れていました。その近くの通りにはスーパーマーケットなどの商店や露店が並んでいます。野菜や果物などが山と積まれ、キロ単位の値段がついています。勿論バラ売りもするようです。魚屋さんでは魚がお祝いの鯛のように頭としっぽが反りかえったものを並べています。

焼き栗を売っていまし

た。粗末な厚手の紙を円錐形に丸めたものに入れて1ユーロ。柿も売っていました。イタリアで柿とは驚きでしたが、日本人が持ち込んだようです。

なんととっても興味深かったのは、かっこよく強そうなイタリアの男性には「マザコン」が多いということでした。絶えず母親と電話連絡をしている人、母からもらった品物を大事そうにしている人、困った時には「オー・マイゴッド」ではなく「マンマ・ミーア」(お母さん助けて)と叫ぶなど、色々だそうです。

しかし陽気で人なつこい人々に多く接することができました。朝の散歩で出会った年配の男性は日本人と見ると話し掛けてきて、広島とか呉とか岸和田などの地名をあげて、その上若かりし頃の日本での写真まで見せてくれました。

広々とした風景や明るい太陽、見渡すかぎりのオリーブやオレンジ。それにおいしいワイン。多くの種類の Pasta 等々。歴史の長さから来るのでしょうか、何かスケールの大きさを感じる旅でした。

グループ紹介③ ニュースポーツ部

福6-い 滝野 昭夫

日頃はニュースポーツ部の活動に対し、何かとご支援いただきありがとうございます。近年、健康・体力づくりに対する志向が高まっている中、生活の利便化と環境の変化により運動量が減っていると思われる。

そこでいつでも、だれでも「人と人との出会いを大切に交流の輪を広げて行きたい」とニュースポーツ部は活動しています。楽しくスポーツに参加し、運動を日常生活の中に取り入れられるよう出来ればと願っています。今年は冬季オリンピック、サッカーワールドカップ、また兵庫県では国体が開催されるなど、スポーツに関心を寄せる機会が沢山あります。健康で楽しい日々を送ろうではありませんか。



グランドゴルフを楽しむ部員たち

KSCグループ学習発表会

神戸市立シルバーカレッジで3年間、学んだ成果を発表する「KSCグループ学習発表会」が、昨年末から行われています。すでに国際コース(12月15日)福祉コース(12月21日)食文コース(12月22日)に終了しています。

残りのコースは次の日程で発表されます。在学生、OBの方は誰でも聴講できますので、振るってご参加ください。

| | | | |
|-------|-------------|-------------|---------|
| 生環コース | 2月3日(金) | 10:00~12:00 | カレッジホール |
| 園芸コース | 2月3日(金) | 10:30~14:30 | 学習室3・4 |
| 音文コース | 2月23日(木) | 10:30~12:00 | カレッジホール |
| 美工コース | 2月27日~3月17日 | (陶芸・絵画展示) | ふれあいホール |
| 合同発表会 | 2月28日(火) | 10:00~ | カレッジホール |

ボランティアレポート

松寿園の俳句会に協力して

音6-文 湯口 澄比古

無痛無汗症の会

シンポジウム in 神戸

音5-い 黒木 幸子

私達、俳句同好会有志は長田区丸山にある市立ケアハウス松寿園で、平成12年8月から俳句会の指導をはじめて5年になります。メンバーは金田英夫(食文6期)ら4名ですが月1回、同園入居者の中から約10余名が参加しています。

人生経験の豊富な方々ですが、俳句は初めてという人がほとんどです。精神的にも落ち着けるよい環境に来て、花鳥諷詠の心境になられたからでしょうか、皆さん大変熱心です。

特に奥田園長が率先して参加者を募ってくださり、とても和やかな雰囲気の中での句会です。皆さんの句風は素直に身の回りのことをさり気なく句にします。私たちの句会は歳時記を片手に、まず季語、そして五、七と付けてゆくのですが、ここの人たちはそんなことはお構いなしです。

私たちも「身の回りの事象を季節の言葉を入れて詠んで下さい」と初心の方に教えました。だから古い歳時記からの感覚でなく、新鮮な現代俳句の作風を感じます。世俗な表現ですが、ボケると俳句など作れない。ボケ防止に、頭の体操

に、俳句などを捻るのはよいことだ一という人もいますが、私は同感です。俳句に限らず頭脳は老いても刺激し使う事は、体の健康にはとにかく「歩け」といわれるのと同じで、へたな健康食品を摂るより大事だと思います。

この松寿園には50名の健全な高齢者の方々が幸せそうなお日々を送っておられます。老人ホーム特有の暗さはありません。私たちも手を取り合っって一緒に俳句を楽しみながら歩いて行きたいと思います。

入園者の中には句作の経験者も居られるようで、上達も早くなかなかの句にも出会います。数多い句の中から代表作を選びました。(第50回記念句集より)

| | | | | | | | |
|-----------------|----------------|------------|----------------|----------------|--------------|--------------|-------------|
| 嵯峨菊のかおりひそかに写経食む | 菜の花や夕暮れ時のわらべうた | 啓蟄に人の心も蠢いて | 老いそめて花見る心ゆとりもち | 母ありて松茸こんぶ炊きし日よ | 梅雨晴れ間傘並びる子沢山 | 夏帽子深々かぶりて一人旅 | 七や何を願うや卒路来て |
| 凛々 | 紫津 | 拓 | ひろ子 | よう子 | おもと | 光子 | 珠 |

「無痛無汗症」のシンポジウムが、昨年11月5・6日の1泊2日、しあわせの村”たんぼぼの家”で開かれました。全国から患者20名、専門医38名、ボランティア(ナースを含む)グループから4名が参加、難病に克服に皆さん熱心に取り組んでおられました。

「無痛無汗症」とは遺伝性感覚・自律神経ニューロパチーともいわれ、先天的な難病です。(社会的に知名度は低い)病気の特徴は①全身に痛みを感じない②汗が出ない③知的障害(軽度~中度)を伴うことが多い。

これらの症状のため、病名

聞き方上手の講習会
カウンセリングから学ぶ

グループ わ ではボランティア活動には欠かせない「聞き方上手」の講習会を1月17日、シルバーカレッジで開きました。講師に神戸市こども家庭センターの伊藤晴雄氏を招き、会員36名が熱心に受講しました。

昨年7月からこども家庭センターの夜間及び休日の電話相談を始めたのですが、相談者との対応が非常に重要となっています。

経験豊富な伊藤氏に聞き方、話し方について指導をお願いしました。カウンセリングの基本として、相談者を尊重し、相談内容に共感する。絶えず中立を守り、機を熟すのを待つこと。

相談内容を旨く聞き出すコツとして・内容の秘密を守る・相談時の間と沈黙・多弁と聞きすぎない・相手の視線と座り方・励ますことの功罪などを挙げています。

を診断されるまで種々の障害に気付かず、治療をしないまま死に至る危険もあった。平成5年、患者・家族により「無痛無汗症の会」(NPO法人)が設立された。

毎年1泊2日でシンポジウムが実施され、全国から患者、家族、この病気に関心のある専門医他スタッフが集まります。この日、集まった患者は幼児から20歳台の方たちでしたが、1家族に1名のボランティアがつき検診会、講演会、全体交流会があり、大変有意義な2日間でした。

ただご家族の精神的苦痛の大変さを実感しました。頑張っている皆さんの為にも厚生労働省より「特定疾患」として認定されることを心より願っています。

編集後記

ボランティアを辞書で引いてみると「社会事業などの篤志活動家、または無料奉仕で何かに参加する人」とある。私達グループ わ はボランティアを目的に設立されたのですが最近、ある区会では数年続けている観光ガイドの継続が危ぶまれています。ガイドを立ち上げた会員たちはせつかくの活動を続けるべきだと主張するが、新しい会員は精神的負担が大きいと辞めたいという。

また別の区会では今後、委託事業を受けるには無報酬では受けられない方針を打ち出しています。少なくとも交通費や必要経費が出ないと長続きはしないという理由。

ボランティアはあくまでも本人の自由意志で強制されるものではありません。時代と共に様変わりするボランティア活動のあり方が注目される。(J・N)



松寿園のお年寄りたちの楽しい俳句会のひと時